

ひぜんこくぶんじあと
備前国分寺跡
りょうくうざんこふん
両宮山古墳

史跡だより

第13号

赤磐市史跡シンポジウム

両宮山古墳以後 — 古墳時代後期の赤磐と倭王権 —

わ おうけん

を開催しました



備前最大の前方後円墳「両宮山古墳」を築き上げた赤磐のその後に迫る!!

9月23日に赤磐市立中央公民館において、赤磐市史跡シンポジウム「両宮山古墳以後—古墳時代後期の赤磐と倭王権—」を開催しました。

赤磐を代表する史跡で吉備の三大古墳として知られる両宮山古墳は、5世紀後半の倭王権を支えた吉備の有力豪族の墓と考えられています。しかし、この巨大前方後円墳築造後の赤磐については一般によく知られていません。市内では、6世紀に大規模な前方後円墳が消えゆくなか、大形横穴式石室が造られ、埴輪や陶棺の生産が行われた重要な地域が確認されています。

そのような遺跡などから、両宮山古墳以後の赤磐について、第一線で御活躍の先生方に講演・討議を行っていただきました。

当日会場には220人の参加者があり、熱心に先生方のお話に耳を傾けられていました。

赤磐市教育委員会 平成29年12月1日発行
〒709-0816 岡山県赤磐市下市337番地

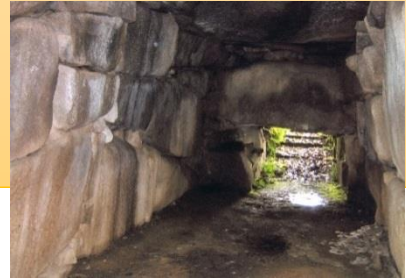
URL <http://bunkazai.akaiwa-rekishi.jp/>
TEL 086-955-0710

遺跡紹介

ここでは、講演やパネルディスカッションで登場した、両宮山古墳以後の6世紀（西暦500年代）の赤磐市内の重要な遺跡を一部ですが、紹介したいと思います。赤磐と言えば、「両宮山古墳」が有名ですが、他にも興味深い遺跡がたくさんあります。

鳥取上高塚古墳（とっとりかみたかつかこふん・西窪田）

県道山口山陽線を北へ向かうと東側に見える天満池のほとりにあります。砂川流域で最大の横穴式石室に今も入ることができます。両宮山古墳の後、斗有や西窪田の一带に前方後円墳が築造されます。



雁木玉 ▶



岩田14号墳（いわた14ごうふん・山陽3丁目）

山陽西小学校から東へ約300m。愛宕山公園の西隣にあります。山陽団地開発の際に発掘調査され横穴式石室からは龍をかたどった大刀の柄頭や珍しい雁木玉（がんぎだま）という縞模様のガラス玉が見つかりました。

土井遺跡（どいいせき・可真上）

ネオポリスを熊山方面へ下って、磐梨小学校方向へ進むと建設中の美作岡山道路の高架をくぐります。その右側の丘陵が道路建設の際に見つかった土井遺跡です。県内初の埴輪を焼いた窯が見つかりました。この可真地域は埴輪や陶棺を焼いた生産関係の遺跡が集中する興味深い地域です。

▼美作岡山道路になった土井遺跡



備前国分寺跡保存整備事業

ほくめんかいろう

北面回廊に解説板を設置しました

平成28年度に講堂地区の遺構整備が完了しましたので、今年度は北面回廊の解説板を設置しました。発掘調査時の写真や模式図を掲載していますので、現地で整備した北面回廊と見比べてみてください。



両宮山古墳墳丘裾保存整備工事の開始について（平成29年11月～）

長年懸案であった両宮池の波浪による墳丘裾の浸食・崩落対策を実施します。

工事は複数年で毎年11～3月に実施します。工事車両の通行・溜め池の水の開栓など御迷惑をおかけしますが、どうぞ御協力よろしくお願いします。